

第2回図書館やお市民フォーラム(2001年8月25日)

利用者から見た現在の図書館サービス ハード・ソフトの両面から考える

利用者から見た図書館サービスについて、ハードソフト両面から考えるというテーマに沿って進められました。図書館の3つの構成要素として、資料・人・建物があるといわれています。その3つの項目ごとに利用者の立場から意見を述べていただきました。さらに、4番目にそれらをトータルに含めた運営サービスのあり方については次回以降にゆっくりと論じ合うことになりました。

現状の課題について視点を当ててもらい、理想論、計画論的なことについては今後の課題として、実際に図書館を使ってみて思うことを中心に意見を述べていただきました。

資料について

・読み聞かせを中心にやってきたので、子どもの絵本を中心に借りている。山本図書館よりも八尾図書館に古い資料がたくさんあり、予約して数日たってもらいにいっている。そこに不便を感じる。山本にも古い資料があればいいなと思う。また所蔵していないものもあり、すぐに出てこないものもある。

・ほとんどが書庫になおされているので、出納してもらっている。忙しそうなので心苦しい。入庫できないか。そうすれば、こちらも気兼ねなく借りられるのではないかと思う。何らかの手続きを踏めば入庫できるようにしてもらえればありがたい。また、書庫にどういった本があるのか、利用者にわかりやすいような形で知らせる努力をしてみたいかという意見も出された。

・検索はすぐできるが、画像がないので、題名と作者だけでは想像がつかなく、手にとって見るまで内容がわからないということがあり、不便。OPACで見たとき、本の表紙の画面ができればありがたい。

・ビデオ・CDなど、シリーズの一部が欠損しており、他館のみというものがあり、不便。特に、ビデオ・CD所蔵館に直接赴かなければならないので不便。

・雑誌ももう少しあればいいなと思う。予約すれば手に入るが。

・予約した本について、どこまで買っていただけるのか。どこまで要望を出せばいいのか。

・あるものはすべて買うというのはいかがなものか。何でもいうのではなく、特色をもった図書館を望む。ごく一般的な資料は各館揃えた上で、専門的な分野については、各図書館が分担して収集をおこない、その分野の資料が整っているといった、機能を分けてみてはどうか。

・要求があるから、図書館で本を買うのはいいことだが、一過性の本については、部数において

もひかえてはどうか。何十人も予約がくれば、たくさん買うのは控えて欲しい。

職員について

・「日本の図書館」によると、八尾市の図書館は貸し出し・資料費とも高い水準だが、職員については職員55名中、37名が嘱託。嘱託員は全員有資格。職員も半数が有資格者ということであるが、正規の職員が少ない。さらに、この規模の貸出があれば、職員が少なすぎるのではないかと。職員一人当たり、年間4万冊以上の貸し出しというのは全国的に見てもきわめて高い数字である。職員一人あたりの貸出冊数は、全国平均では、2万5000冊ぐらいである。年間190万冊以上の貸し出しがあるのなら、職員は80名ぐらいは必要になるはず。先ほどから、職員が忙しそうで、書庫出納するのに気兼ねするという話がでたが、この数字から見るとやはり、忙しすぎるといえるかもしれない。

・ボランティアを導入してはどうか。職員を増やさず、ボランティアを使えば、開館時間も延長できるのではという意見がある一方、人手不足をボランティアで補うのは基本的に反対。受益するものが、負担するというものにしていかなければならない。足りないところをボランティアでと、行政が音頭をとって、補うやり方は考え物だと思う。行政主導で、人手不足を補うやり方が広がるのは問題であるという意見も出た。事務局より、今の図書館のボランティアの状況について次のような説明がなされた。八尾のボランティアは、主に子どもの行事を中心に担当している。本の読み聞かせなど、定例的におこなってもらっている。保育付き講座について、保育を有償でおこなっている。有償で対面朗読等がある。リサイクルなどの時ご協力をお願いすることがある。さらに、図書館が何かおこなう時のボランティアはいいと思うが、日常運営にかかわる部分については、慎重に考えていくべき問題かと思う。今ある部分と日常運営は性格が異なるので慎重にと考えている。

・どの人に聞いたらいいのかわかったほうがいい。レファレンス担当の職員がわかるようにすればいいのではと思う。図書館サービスを評価する時、開館間際は、貸し出しで評価されることが多いが、それ以降は質的なことが問題にされてくる。どの人に聞けばいいのか、利用者にわかりやすいようにしておくのは、すぐにでもできることではないだろうか。

建築物・設備について

図書館を建て替えるまでにはかなり時間を有し、今すぐにどうこうできることではないが、図書館として今の設備的にまずいと思うことを上げることによって、次の建設にお互いに認識しておくことは意味あることではないだろうか。そういう問題点を出し合うことで、今後の計画にも生かせるのではないかとオブザーバーの中村先生より趣旨説明をいただき議論に入った。

・八尾の建物特に階段を何とかして欲しい。自転車置き場もわかりにくい。年寄りはやベビーカーで来館された方は、段差が多く入りづらい。建物としては趣きがあるが…。

・机が少ない。事典などを広げる場所もない。イスに寝ている人もいる。ワゴンなどを借りれたら資料を運ばずその場で見ることができるので、置いてもらえないかと思う。

・座席がないので、辞書類でも貸し出さなければならない状況にあるのではこれからの図書館を考える上ではマイナスである。最近滞在型の利用が増えているので、閲覧席の問題は大きいかと思う。建設を考える際、眠っている人がいるという問題も生じてくるので、大きなソファをやめて、小さなstuhlを置いてみればどうか。座席を求めてくる人はますます出てくるだろう。時代の流れに沿って、図書館が対応できるか。ハード面を考える場合、重要なポイントになってくる。

・自習室については、望むという意見がある一方で、学生の目的外使用のために社会人が追いやられる方が問題ではないか。図書館に組み入れるのではなく、学習室などを隣接させる形が望ましいなどの意見が出された。

・ヤングコーナーについてはどうか。中高生は受け入れられていない。新しい図書館はヤングコーナーを作る傾向にあるが、積極的に受け入れようという傾向もできているが、コーナー的なことは考えてもいいのでは。

・小グループで利用できるような部屋を設置して欲しい。これからはそういうグループ活動ができるような部屋があればいいと思う。

利用者の目からみた図書館の三要素 資料・人・建物については、それぞれ意見が出たが、それらを統合したサービスについては次回以降に話し合うこととなった。